

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990100182		
法人名	株式会社 トウルーケア		
事業所名	トウルーケアG.H.ハイブリッジ		
所在地	栃木県宇都宮市若松原1-11-10		
自己評価作成日	令和5年12月25日	評価結果市町村受理日	令和6年4月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所では、引き続き入居者様はもちろんご家族様、外部の方への接遇に力を入れております。入居者様が安心して過ごして頂けるようなケアを行いご家族様にも「ハイブリッジに入居して良かった。」と思っていただければ幸いです。また、施設の雰囲気良ければ新規の入居にも繋がりが在籍率もUPすると思います。  
自治会の徘徊模擬訓練にも参加し地域貢献出来ればと思っております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、宇都宮市南部の住宅街に位置し、近隣には総合運動公園や警察署、消防署などの公的機関のほか多くの商業施設があり、利便性に恵まれた環境にある。「明るく元気に挨拶、いつも笑顔でゆとりの介護」という事業所理念のもと、職員は常に笑顔で優しい声掛けに努めている。職員自身の心のゆとりがケアの質に影響することを意識して、管理者は職員同士のより良い関係作りと職場環境の整備に努めている。また、カンファレンスや研修等によりケアを振り返り、理念を実践に繋げられるよう取り組んでいる。自治会に加入し、徘徊模擬訓練に参加したり、オレンジセーフティネットに登録するなど、地域との交流に取り組んでいる。近隣住民との関係も良好で、災害時には避難した利用者を自宅に受け入れてもらうよう依頼するなど、協力体制を築いている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	令和6年2月27日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員に理念を覚えてもらい研修を通じて実践につなげている。	「明るく元気に挨拶、いつも笑顔でゆとりの介護」という事業所理念のもと、職員は常に笑顔で優しい声掛けに努めている。心のゆとりがケアの質に影響することを意識しながら、研修等により振り返り、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルスが第5類になった為、以前のようにボランティアに来て頂き地域との交流を深めていきたいと思っている。	自治会に加入し、徘徊模擬訓練に参加したり、オレンジセーフティネットに登録するなど、地域との協力体制を築いている。コロナ禍以前に定期的に来訪していた音楽演奏、手品、そば打ち等のボランティアの受け入れ再開を検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の集まりに参加し意見交換をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括の方や民生委員の方、地域の方から意見を頂きサービス向上に活かしている。	地域包括支援センター職員、元自治会長、近隣の小規模多機能事業所管理者など、多方面から参加を得て開催している。職員のストレス軽減に関して、参加者の提案をきっかけに、職員に満足度アンケートを実施し、職場環境の整備に繋げるなど、意見をサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	わからないことがあれば市に連絡し相談している。	区分変更申請などの介護保険に関する相談のほか、生活保護の利用者の申請手続き、身寄りのない方の事業所利用に関する相談などに対して、アドバイスをもらっている。市担当者とは連絡を密に取り合い、良好な関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回の研修、3か月に1度の委員会等で職員の理解に努め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	研修や委員会など、定期的に利用者ケアについて話し合う場を設けることで、職員同士で情報交換し、気づきを得ながら拘束のないケアについて意識づけしている。否定的な表現をしないよう、スピーチロックには特に注意しながら支援にあたっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	こちらも年2回の研修、3か月に1度の委員会等で職員の理解に努め虐待防止に努めている。		

トウルーケアGHハイブリッジ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者がエリア会議等で研修を受け、その後全職員に周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にきちんと説明し理解、納得して頂いた上で契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議やケアプラン更新時等にご家族様からの意見を聞くように努めている。	家族が日用品を届けに来所した際や、病院受診の送迎時などに、利用者の近況を報告するとともに、暮らしの希望を確認している。気軽に連絡を取れるようにLINEも活用しながら情報発信している。外出や面会の希望にはできるだけ応えられるよう配慮している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス、その他で職員の意見、提案を聞き良いものは反映している。	利用者のADLの変化に関する職員の気づきをもとに食事形態を変更するなど、ケアに反映させている。管理者は、カンファレンス以外の場でも、いつでも気軽に意見を表せるような風通しの良い職場環境づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ヒアリングや評価シートを使い職員の意見等の把握している。管理者は本部マネジャーと密に連絡を取り伝えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内、外の研修を斡旋してくれている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	エリア会議やグループ内のヘルプを通じてお互い向上出来るように努めている。		

トウルーケアGHハイブリッジ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実調等で得た情報を元に安心して過ごして頂けるようなケア、声掛けに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の実調、契約時等に本人様、ご家族様から困っていること、要望をお聞きして関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様、ご家族様とよく話し合い最適だと思うサービスの提供を目指している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様と一緒に作業をしたり、隔たりをなくするため職員に制服がなく私服で勤務している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の協力無くして良いサービスは出来ないと考えご家族様にも協力をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍でご家族様以外の面会はあまり行っていないが少しずつご友人の面会を再開している。	墓参りや自宅への外泊、家族との外食など、人や場所との関係が維持できるよう働きかけるとともに、電話の取り次ぎなど、面会以外での繋がりも継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自立度の高い入居者様が介護度の高い入居者様のお手伝いをして下さるなど良い関係が築けていると思う。		

トウルーケアGHハイブリッジ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後でもご家族様への連絡をしたり相談にのったりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望に添えるよう職員同士話し合ったりカンファレンスで意見を出し本人様本位の支援を行うよう努めている。	利用者と向き合う時間をしっかりと作り、対話を重ね本人本位に意向を検討している。利用者の不安な気持ちに寄り添えるように、職員自身も心に余裕をもって対応することを大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員全員が生活歴、フェイスシートを把握しサービス向上に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り、記録を徹底し職員全員が把握出来るよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の担当者によるモニタリング、面会やカンファレンス等で話し合い現状に即した介護計画を作成している。	担当職員の気づきや利用者、家族の希望を取り入れながら、カンファレンスを実施し、ケアマネジャーが計画作成している。状態変化の都度、検討を重ね、現状に即した内容となるよう適切に見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録や申し送りノートを活用し情報を共有しチームケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	頭でっかちにならず出来るだけ本人様、ご家族様のニーズに対応するよう柔軟な考えを持つように指導している。		

トウルーケアGHハイブリッジ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	あまり外出支援は出来ていないが施設周辺の散歩、買い物、ご家族様との外出を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様の要望を往診医に伝え相談して適切な医療を受けられるような支援をしている。	ユニット毎に2週間に1回の訪問診療があり、夜間も往診医の対応を可能とすることで、利用者、家族の安心に繋げている。皮膚科や眼科等の受診は家族対応としているが、適切な医療を受けられるよう情報共有に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に相談して指示を仰ぎ入居者様の健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院共通連携シートを提供し入院中も病院、ご家族様と連絡をとり早期に退院出来るよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際話し合いあらかじめ重度化した場合の確認書に記入していただいている。重度化した場合もご家族様に再確認しその方針に添った支援に努めている。	利用開始時に、事業所でできることを説明するほか、利用者、家族の意向をもとに、段階に応じて話し合いを行い、方針を確認している。協力医との連携のもと、看取りの実績もある。	看取りに携わる職員が不安なく看取りに取り組めるよう、勉強会やカンファレンスなどの場で職員教育を図る取り組みに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のマニュアルに沿って対応出来るよう指導している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練やカンファレンスでの話し合いにより実践力を身につけ、地域の方との協力体制を築いている。	年2回、夜間想定を含む避難訓練を実施しているほか、カンファレンスで図上訓練を行うなど、実践力の強化を図っている。近隣住民に避難者の受け入れを依頼するなど、協力体制を築いている。水、食糧等の備蓄やカセットコンロなどの備品も適切に管理している。	

トウルーケアGHハイブリッジ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様に対し敬う心を持ち失礼がないよう配慮したケアを行っている。また職員同士で注意しあえる環境作りに努めている。	楽しく、仲良く過ごすことを重視しつつも、利用者を敬う姿勢を大切に、言葉遣いには特に留意している。トイレ誘導時や失敗時の対応はさりげない声掛けで行うよう、職員同士で注意し合いながら、利用者の人格を尊重したケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何事に対しても入居者様が自己決定できるような声掛けをするよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様にその都度希望を聞き、出来るだけその人のペースで過ごせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの際など、本人様の希望に沿った服装になるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様一人ひとりの好みを把握し嫌いな食べ物には代替え品を提供している。食後のトレイ、テーブル拭きをお願いしている。	食事は調理されたパックが業者から届き、ユニット毎にご飯と汁物を作っている。利用者にはできる範囲でテーブル拭き等を手伝ってもらい、職員も介助しながら一緒に食事している。家族から差し入れされた野菜や果物を提供したり、イベントに合わせてケーキを食べたりと、食を楽しめる支援に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士と相談しおかつの形状などの工夫をしている。水分量も1500ml摂取出来るよう考え支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔スポンジを使用するなど一人ひとりに合わせた口腔ケアを行っている。		

トウルーケアGHハイブリッジ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様一人ひとりの排泄のパターンを把握しなるべく排泄の失敗がないよう声掛け、支援を行っている。	できるだけトイレで自立した排泄ができるよう、声掛け誘導、介助している。夜間のみオムツやパットを使用したり、自立している利用者も日中と夜間で誘導方法を変えるなど、一人ひとりの持つ力に合わせた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の把握や体操、リハビリ運動の実施により便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には週2回の入浴としているが本人様の希望等により対応している。	週2回、午前中の時間帯を基本としているが、利用者の気分や体調に合わせて臨機応変に対応している。拒否傾向のある利用者に対しても、入浴剤を用いて温泉気分を味わってもらったり、薬を塗る目的と称して脱衣できるように声掛けしたりと、工夫しながら入浴支援に取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様一人ひとりに合わせお昼寝など自由に休んでいただいている。夜、安心して眠れるよう優しい声掛け、ケアを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が把握し変化に気づけるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コミュニケーションをよく取り、作業をしていただいたりゲーム等を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物に出かけたりお花見に行ったりしている。	職員が企画して、近くの運動公園の花見に出かけたり、敷地のまわりを散歩したりと、戸外に出て季節を感じられる機会を設けている。図書館に本を借りに出かけたり、近隣のショッピングモールまで日用品を買いに出かけるなど、個別の外出支援にも取り組んでいる。	



トウルーケアGHハイブリッジ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様と買い物に行った際に財布をお渡しして支払いをしていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	スマートフォンをお持ちで自ら電話をかけたリ、ご家族様からの電話の際お話していただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適に過ごせるよう常に綺麗にし、毎月季節に合った壁紙製作を入居者様と共に行っている。	リビングの壁面には季節の飾り物や利用者の作品を掲示し、季節感や生活感を感じさせる工夫をしている。温度湿度はユニット毎に管理している。リビングで利用者は洗濯物をたたんだり、思い思いに居心地よく過ごせるよう支援している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各フロア内で工夫を凝らし一人ひとりが快適に過ごせるようテーブルの配置など行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様と相談しテレビを置いたり照明の調節を行い、居心地よく過ごせるよう努めている。	ベッド、エアコン、洗面台、クローゼット、カーテン、タンスが備え付けられている。職員は利用者と一緒に衣類の入れ替えや清掃を行うほか、利用者の作品や写真を飾り、心地よく過ごせる居室作りを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の表札やタンスの衣類別の表示、トイレの案内表示しわかりやすく出来るだけ自立した生活が送れるよう努めている。		